

GREEN×EXPO 2027

(2027年国際園芸博覧会)の開催に向けて



GREEN×EXPO協会
事務総長 河村 正人

はじめに

日本で開催された6回目の万博として2025年に大阪市・夢洲で開催された大阪・関西万博は、半年間の会期に約2,900万人の来場者を集め、大盛況に終了しました。次の7回目の万博として神奈川県横浜市において2027年国際園芸博覧会、GREEN×EXPO 2027（以下GREEN×EXPO）の準備が着々と進められています。これはBIE（博覧会国際事務局）認定の万博であり、かつAIPH（国際園芸家協会）承認のA1クラスの国際園芸博覧会として、日本では1990年の大阪花の万博以来37年ぶりに開催されるものです。



GREEN×EXPO 2027会場イメージ図（2026年6月現在）

2. GREEN×EXPOの経緯とテーマ

1) GREEN×EXPOの経緯

GREEN×EXPOは、神奈川県横浜市の瀬谷区、旭区にまたがる旧上瀬谷通信施設（約240ha）の一部、約100haで開催されます。ここは2015年に米国から日本に返還され、横浜市が市施行による土地区画整理事業を実施しています。土地利用計画においては、北側に物流地区、中央に観光・賑わい地区、西側に農業振興地区、南側に公園・防災地区を配置し、南側の公園については、国際園芸博覧会の会場とし、博覧会の開催後はレガシーを継承する横浜市の防災公園として開設されることとなっています。

会場整備は、横浜市の土地区画整理事業で基盤整備を行い、博覧会会場となる区域のほとんどを横浜市の都市公園事業として主要園路や高木植栽、パークセンターを整備し、さらにそこで博覧会協会が博覧会のための細園路や庭園植栽、また博覧会の会期中に活用する仮設建築を整備することとしています。

2) テーマ及び理念

BIE認定の万博においてはテーマが極めて重要です。1994年のBIE総会において、「全ての博覧会は、現代社会の要請に応えられる今日的なテーマがなくてはならない。」とされ、愛知万博以降の万博では、この決議によりテーマの位置づけが明確になり、万博の目的が人類の課題解決という形で整理されました。

GREEN×EXPOにおけるテーマ「幸せを創る明日の風景」は、横浜市の基本構想案において当初からメインテーマとして提示されていたものであり、豊かさの再定義により、これまでの経済的な豊かさを主体とした対比的な充足から、自然との共生やつながりがもたらす幸福感を深めていく社会を目指し、心の豊かさである「幸せ」、空間・環境・時間が織りなす「風景」、次世代や未来の「明日」を重ね合わせたものとなっています。



GREEN×EXPO 2027キービジュアル「地球と。咲きに行こう。」 ©Expo 2027

3. 会場計画

1) 会場計画の概要

会場計画は横浜市の公園計画と並行して進められましたが、計画にあたっては、横浜の丘陵地